

『読書感想文』虎の巻

腕組みをして悩む時間はもったいない！



この中に書いてある質問に答えるだけで、
賞をとるような感想文が書けちゃうんです。

言葉の魅力を伝えるスーパー伝道師 さくまけんじ

※最初にこの枠の中だけは読んで下さい

この“虎の巻”の利用方法

→時間のない人は、**青い文字**だけ読んで下さい。

→勉強したい人は、**じっくり時間をかけて読んで下さい。**

はじめに、、、

こんにちは。

この“虎の巻”を手にしたあなたは、とてもラッキーです。

なぜかと言うと、**文章のひとつのパターン**をどんな本よりもわかりやすく書いているからです。あなたが、小学生ならめっちゃくちゃラッキーです。今から、**文章を書く度に悩まなくてすむ**からです。この“虎の巻”は、お父さんにも見せてあげて下さいね。

この“虎の巻”を書いたわけをちょっとだけお話ししますね。

私(さくま)は、大学で“国語をどう教えるか”という勉強をしました。でも先生にはなれなかったので、勉強した内容を生かせる場所はありませんでした。しかしながら、昨年(平成15年)に「**白い矢と桜色の矢**」という^D付き絵本を作るお手伝いをし、今年**の6月**には、「**あーちゃん海をわたる**」という絵本を出すことができました。“先生という立場ではないけれど”自分の書いた文章を多くの人に読んでもらう機会を得ることができたのです。そういったことをきっかけに、色んな出会いがありました。そこで**多くの人**が抱えている悩みのひとつに“**文章を書くのに時間がかかる**”ということがあると気付きました。「それならば、、、」ということで、この“虎の巻”を書いたわけです

。文章のパターンは限られています。それを知っているか、いないか、だけの問題です。この“虎の巻”に書いてあることは、**いったってシンプル**です。なので期待して読む人には拍子抜けするような内容かもしれません。しかし、**シンプル**なだけに、覚え易く、しかも、相手に伝わり易いものになります。**こんなことは、絶対学校では教えてくれないだろうなあ**——ということを書いています。是非、**パターン**を覚えて、これからの生活に生かして下さいね。

この“虎の巻”は次の順番で書いています。

1 色々な場面で使える文章のパターンはこれだ!

2 鉛筆が止まったとき、助けてくれる言葉とは?

3 次の質問に答えてみよう!

4 穴埋めをして、読書感想文に仕上げよう!

※宿題に追われている人は、**3と4だけでオッケー**です。残りの部分は、お父さん、お母さんに読んでもらって、**後から教えてもらってね。**

1 色々な場面で使える文章のパターンはこれだ！

ずばり、はじめに答えをいいます。それは、“起承転結”です。

「えっ、それってどう読むの？」というあなた、教えてあげます。

「きしょうてんけつ」です。

“起承転結”は、基本中の基本ですが、それをきちんと使える人はあまり多くないです。辞書でひいても、理屈ばかりで「文章の組み立て方のひとつ」と書いていますが、「じゃあ実際にこうしたらいいですよ」とは、書いていませんよね。でもご安心を。

今から、その具体的な方法を、教えます。

まず、書く前に白い紙を用意して、おおまかに4つに区切って、その先頭に次の4つの言葉を書きます。

①まず始めに、(最初に、)

②次に、

③(関係のない人やもの)

④最後に、(まとめると)

これで、おしまいです。

誰でも、できますよね。この4つに沿って文章を書くと起承転結になっちゃうんです。すっきりした構成になるので、文章を読む人にも、伝わり易いものになるのです。

では、ちょっと具体的にやってみますね。『あーちゃん海をわたる』の本を読んで感想文を書く場合にしますね。

『あーちゃん海をわたる』を読んで

①この本を読み終えて、まず始めに思ったのは、「ばんばれ」と言うことばが多いなあということ。なんか、私がかんばれって言っているようで、ちょっと不思議な気持ちになりました。

②そして、次に思ったのは、あーちゃんがみんなと飛べるようになってよかったなあということです。あーちゃんは、ひとりのままだともしかしたら、海をわたれないかもしれないなあと思いました。

③私は、今日読んだあーちゃんのことをおかあさんに聞かせてあげました。そして、この本をお母さんにも読んでもらいました。おかあさんは、「お母さんは、このあーちゃんのお母さんや、お父さんのように、花子に色々なことを伝えているのよ」といいました。私は、わかったような、わからないような感じで「ふーん」と返事をしただけでした。

④ そして、最後にもう一度、あーちゃんの物語を読んできました。あーちゃんのお父さんやお母さんが「飛ぶ練習をしよう」という場面が、出てくる度に、お母さんの言葉が思い出されました。最後の方に何度も出てくる「がんばれ」が、私のお母さんが私に「がんばれ」といっているような感じになりました。

という具合ですね。

- ①まず始めに思ったのは、、、、、
- ②そして、次に思ったのは、、、、、
- ③お母さんとの会話
- ④最後にもう一度読むと、、、、、

この「あーちゃん海をわたる」の感想文の場合だと③に、お母さんが出てきていますが、これは、お父さんでもいいし、鳥の図鑑でもいいし、鳥の物語（みにくいアヒルの子、白鳥の湖、百羽の鶴など）でもいい。近所の川や池にカモを見に行くのもいいかもしれませんね
読書感想文の場合だと、この③でいったん本から離れて、④へ戻るとするのが大事！読書感想文でない文章でも、③では、①②とは関係ない（あるいは関係なさそうな）ものへ話題をそらすことが大事。そして、④でまとめるんですね。これが基本の起承転結という文章のパターンです。

起承転結を、もう一度まとめると、

- ①まず
- ②次に
- ③（関係ない人やもの）
- ④最後に

の順番で構成するということです。

早速、白い紙を用意して、この4つの文字を書いてみよう！！

2 鉛筆が止まったとき、助けてくれる言葉とは？

さあ、あなたは文章のパターンを知ることができたので、早速、原稿用紙に向き合ったと思いますが、順調ですか？「そんなに順調なはずないよ〜」という声が聞こえてきそうですが、そんなあなたのために、とびきりのアドバイスをおきますね。

文章を書いていて「うーん、どう書いたらいいだろう？」と筆が止まるときがありますよね。そのときに、助けてくれる具体的な言葉を2つだけ紹介します。いいですか、2つだけなので、絶対忘れないでくださいね。では、紹介します。

A 例え（具体的には）

B どうしてかという（なぜなら、なぜかという）

この2つ以外はいらぬといってもいいくらいに重要な言葉です。

つまり、Aは例え話をするということで、Bは理由を明確にするということです。この2点を示してあげることによって、読む側はあなたの言いたいことが分かりやすくなるんですね。いたって簡単で、シンプルなことなんですけどね。

では、前に書いた「あーちゃん海をわたる」の感想文で、2つの例をあげてみます

①この本を読み終えて、まず始めに思ったのは、「がんばれ」と言うことばが多いなあということです。なんか、私がかんばれって言っているようで、ちょっと不思議な気持ちになりました。

→A:例え、みんなで飛ぶ場面から、最後のあーちゃんが、「がんばれ」っ声を出す場面まで、何度も「がんばれ」がでてきますが、いつのまにか私もいっしょに飛んでいる気持ちになったのです。

→B:なぜなら、本を読んでいるのは私で、私はあーちゃんに「がんばれ」を言いたいし、飛んでいる仲間の鳥は、一番前の鳥に「がんばれ」をいっているんだけど、何度も「がんばれ がんばれ がんばれ」ってでてくるので、読んでいる私が「がんばれ」って言われているようで不思議な気持ちになったからです。

A(例え)とB(なぜなら)ともに、始めの①のこのことの説明になりますよね。なので、文章がわかりやすく変身してゆくんなんです。ちょっとだけ難しい話をしますね。このA(たとえば)とB(なぜなら)は、物事を考えるときにも生かします。思考のプロセスに生かせるんですね。自分がなにか問題を解決しなきゃいけないときに、「同じような例はないか?」「どうしてこうなるのか?」この2つの質問を答えることによって、解決策の糸口が見つかったり、そのことを人に説明しやすくなるんですね。

では、先ほどの、①②③④と起承転結を作ったと思いますが、それぞれAとBを考えてみてください。

3 次の質問に答えてみよう!

時間に追われているあなたのために、いくつか質問を用意しています。この質問に答えていくだけで、読書感想文の下書きになります。あわてずに、質問に答えて下さいね。

質問1 あなたの読んだ本の題名（タイトル）を教えてください。

質問2 その題名（タイトル）を見て、また、表紙の絵を見てどんな物語りが始まると思いましたか？

質問3 登場人物のなかで、誰がいちばん好きですか？

質問4 それはなぜですか？「○○のときの○○が、とても○○だから」という形で、
答えて下さい。

質問5 普段の生活の中で、質問4で答えたことと似ているものをあげてみて下さい。

質問6 質問2で書いた予想と質問5で答えたことは似ていることですか？全く違っていることですか？

似ている ・ 違っている

質問7 質問1～6を答え終えてからの、この物語に対する感想は？

4 穴埋めをして、読書感想文に仕上げよう！

さあ、いよいよ仕上げですが、前のページで答えたことを穴埋めするだけで感想文が書けちゃう！パターンは起承転結で！では

「（質問1の答え）」を読んで

僕は、「（質問1の答え）」という本を読みました。

僕は、まず始めに「（質問1の答え）」という本の名前が気になりました。なぜなら「（質問1の答え）」という本のなまえから、（質問2の答え）という話の本なのかなあと考えたからです。表紙の絵を見ると（○○○）が描いていたので、たぶんそうだろうなあと思いました。

次に、気になったのは物語に出てくる（質問3の答え）です。（質問3の答え）は、物語の中では、○○です。（質問4の答え：○○のときの○○がとても○○だから）

（質問3の答え）のことが、なぜ気になったかというと、（質問5の答え）だからです。

僕は、この物語は（質問2の答え）なんだろうなと思っていましたが、少しちがっていました。それは、（質問7の答え）

僕はこの本に出会えて、とても良かったです。

～具体例～

「あーちゃん海をわたる」を読んで

僕は、「あーちゃん海をわたる」という本を読みました。

僕は、まず始めに「あーちゃん海をわたる」という本の名前が気になりました。「あーちゃん海をわたる」という本のなまえから、あーちゃんという鳥が海をわたる話の本なのかなあと考えたからです。表紙の絵を見ると鳥が海の上を飛んでいるような絵が描いていたので、たぶんそうだろうなあと思いました。

読み進めていって、次に、気になったのは物語に出てくるあーちゃんです。あーちゃんは、物語の中では、生まれたばかりの渡り鳥です。始めてみんなで飛ぶ練習をしたときのあーちゃんは、とても印象的でした。

あーちゃんのことを、なぜ気になったかという、僕が始めてサッカーの試合に出たときに似ているなあと思ったからです。僕は、この1学期に始めて、サッカーの試合に出ました。今までは、ベンチで「がんばれ」と応援していましたが、試合に出るとベンチのとき以上に声を出しました。あーちゃんやあーちゃんの仲間が先頭の鳥に向かって「がんばれ」をいていたように、ボールを持つ選手に「右！右！」とか「後ろ危ない！」と大きな声をかけました。

僕は、この物語は、あーちゃんという鳥が海をわたる話なんだろうなと思っていましたが少しちがってました。僕は、海をわたる話ではなくて、仲間を応援することの話だなあと思いました。あーちゃんが「がんばれ」と声を出したように、僕も色々な場面で、「がんばれ」と声を出したいです。

僕はこの本に出会えて、とても良かったです。

文章は、パターンです。そっくりこのままの必要はありません。枚数が足りないという場合は、「例えば」「なぜなら」を組み込んでいくといいですね。

あと起承転結の転ですが、今年の夏はオリンピックが盛り上がっていますよね。そういったこと的话题を取り上げるのもいいかもしれませんね。

おわりに ーなぜ“読書感想文”という宿題があるのかー

最後に少しだけ、お話しますね。なぜ“読書感想文”という宿題があるのか？ということについて、私の意見をちょっと書きますね。

一番は“書く作業”だと思います。で、何を書くか？なんですけど、この“読書感想文”というのは、①読んだ文章から何を捉えたか？ということと②文章を読んで何を感じたか？思ったか？の両方を書かなければならないのです。これは、すごいことなんですよこのスキルを充分身に付けているだけで、社会では圧倒的に有利です。

つまり、

あることからの要点をまとめてと自分の意見をいう

という作業は一生付いてきます。会話で話していると何となくまとまるとか何となく言えるという人はいうでしょう。しかし、それを文章にできるという人は少ないです。これは、私の実感です。なので、たかが“読書感想文”と思わず、真剣にスキルアップを目指してくださいね。小中学校だけでも9回書くチャンスがあるわけですから、パターンを把握して、がんばって下さい。応援しています。では

言葉の魅力を伝えるスーパー伝道師
さくまけんじ

※さくまの活動は、ホームページ上で見るすることができます。

URL <http://www.sakumakenji.com>(さくまけんじ.com)